

南半球便り（その 45）：メルボルン出張

11月26日

先週と先々週の二回にわたるシドニー出張に相次いで、今週はメルボルンに出張してきました。今日は、その報告をさせてください。



メルボルンのフリンダース・ストリート・ステーション

1. デソウ総督の心遣い

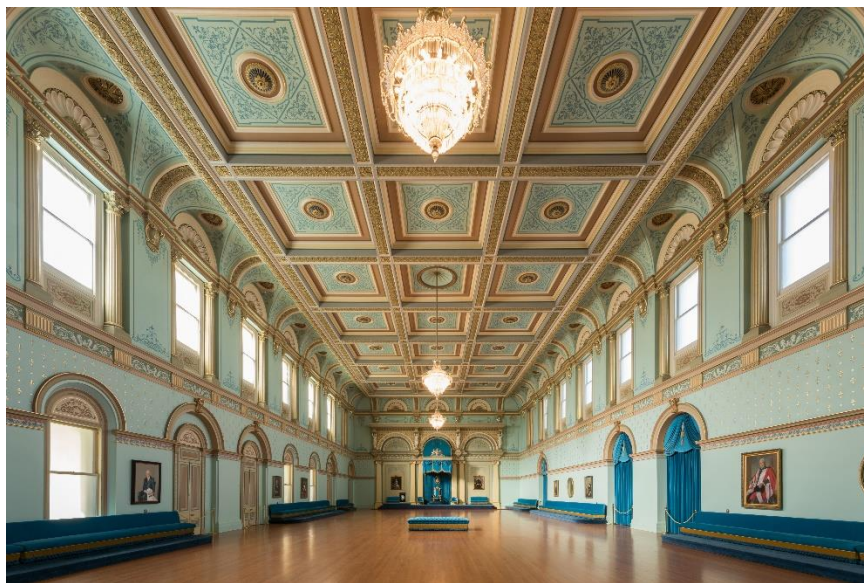
今回の出張で感嘆したのは、ビクトリア州のデソウ総督ご夫妻による実に心温まるお気遣いでした。145年の歴史と180もの部屋数を誇る豪壮な総督公邸で余人を交えずに昼食をご馳走になりました。その上、ナショナルギャラリーでの特別展覧会の開会式・夕食会でもご一緒し、さらには公邸に宿泊までさせていただいたのです。

聞けば、日本の大ファンであり、東京、京都、広島はもちろんのこと、中山道散策やニセコ、白馬のスキーも楽しまれた由。ビクトリア州の姉妹都市である愛知県知事他も以前公邸に宿泊されたとのことでした。まさに、ビクトリア流「おもてなし」を堪能しました。

総督もご主人も、かつて判事を務められた法曹界の重鎮。インド太平洋における「法の支配」の重要性など、喫緊の課題について知的刺激に富む意見交換ができました。



デソウ総督夫妻と共に



145年の歴史と180もの部屋数を誇る豪壮な総督公邸
(写真提供：ビクトリア州総督府)

2. ガンデル夫妻の思い出

出張の大きな目的は、ナショナルギャラリーで開催された日本の古美術「貝合わせ」特別展覧会の開会式への出席・スピーチでした。豪州でトップクラスの財力を誇るガンデル夫妻、特にポーリーン・ガンデル夫人（2014年に旭日小綬章叙勲。）のご尽力により、数々の日本の古美術品を収集されてきた中、今回は平安時代より日本で愛用され

てきた「貝合わせ」の展覧会がメルボルンで開催されたのです。

蒐集品の品揃えが圧巻であっただけでなく、日本の伝統芸術を現代・将来に引き継ぐべく、豪州の植物を題材に金箔を貼った貝に描かれた数々の絵模様の精緻な美しさ。古き良き日本の伝統が豪州の地で脈々と引き継がれていく有様を目の当たりにし、非常に感激しました。【私のスピーチは[ここ](#)をご覧ください。】



ガンデル夫妻との握手



貝合わせの展示

3. メルボルンの知日派

着任以来、シドニーには既に7回も出張したのに対し、メルボルンへはこれが2回目。それというのも、メルボルンが6ヶ月という異例の長期間ロックダウン入りし、訪問しなくても訪問できなかったことが大きな原因でした。

しかし、デソウ総督、ガンデル夫妻等々、政財界の要路に日本に多大の関心と愛着を有しておられる方々がいるのは、実に有り難いことです。先人が築かれた関係を大切にするとともに、世代を越えて継承、強化していくことの大切さを痛感しました。

4. マスコミの論客との出会い

嬉しかったのは、メルボルンを本拠とする大物ジャーナリストとも、じっくりと意見交換をする機会に恵まれたことです。島田総領事の計らいで、オーストラリアン紙のグレッグ・シェリダン氏、スカイニュースの看板キャスターであるペタ・クレドリン女史・ブライアン・ロックネン夫妻と様々な問題について忌憚のないやりとりが出来たのも、メルボルンならではの貴重な体験でした。



ペタ・クレドリン女史、ブライアン・ロックネン夫妻、島田総領事夫妻と共に

また、「対外発信」すべく、エイジ紙のインタビューも受けました【記事は[こちら](#)です。】

5. 「頻繁に来ます！」

メルボルンは美しい町です。スペースと緑の豊かさ、歴史を感じさせる街並み、味わい深い建築、食事の質の高さ、どれをとっても、世界の主要都市の「住み心地ランク」で常にトップをうかがう実力を納得させてくれます。

来年には日本企業が深く関与してきた水素事業の進展も期待され、全豪オープンでの日本人選手の活躍にも胸が高鳴ります。「また」というよりも、「頻繁に」来たい町です。

山上信吾